



# 子育て情報 2月号

平成30年 2月

椋山女学園大学附属幼稚園

## 園長冥利に尽きます

園長 横尾 尚子

昨年末、お正月用の見事なレンコンがたっぷり入った宅配便が届きました。送り主の名前を見ても、すぐにはピンときません。住所を見ていてハッと気がつきました。中学校での教え子です。30年以上も前に担任した男子生徒からの思いもよらない贈り物でした。私のことを覚えていてくれた驚きと、レンコンを送ってくれる程に立派な大人になったのだという喜びで、目頭が熱くなりました。

新卒の私が勤務した中学校は、レンコンと有明海苔で有名な干拓の町にありました。中学校の周囲には実り豊かな田畑が広がり、のどかな風情が漂っていましたが、当の中学校は校内暴力の渦中であって、新米教員には辛い毎日でした。このところ教員の長時間勤務が話題になっていますが、当時の私達は、校内外で発生する問題行動への対応に追われ、日をまたいで帰宅する日も少なくない勤務状況でした。精神的にも肉体的にもボロボロで、おまけに授業もヘタな新米教員は、ただただ頼りない担任だったと思います。それでも、校内バレーボール大会を目指して早朝練習に励んだり、文化祭では創作劇に取り組んだり、ツッパリ君達も巻き込んで、クラス中で笑い合った日々が幾度もあったことを、目の前のレンコンが思い出させてくれました。「教員冥利に尽きるね」と夫が声を掛けてくれるまで、どれほどの時間がたったのでしょうか。その間、私はとても幸せそうな顔をしていたそうです。

そう言えば、「教員冥利に尽きます」という言葉を少し前にも目にしました。10月30日の椋山幼稚園創立75周年記念講演にお招きした山崎晃先生からいただいたメールにありました。前夜の打ち合わせを兼ねた夕食会へのお礼のメールに添えられていましたが、不肖の教え子が、伝統ある椋山幼稚園の園長として先生をお招きしたこと、関係者の方々に支えられて何とか園長の職責を果たしていることをたいそう喜んでくださっていましたので、それを含めての言葉だったと思います。「冥利に尽きる」とは、「その立場にいる者として、これ以上の幸せはないと思うこと」だそうです。おかげ様で、恩師に、やっと少し恩返しができました。

「教員冥利に尽きる」のは、教え子の成長ぶりを実感させてもらえる時です。直接携わっている時にもその機会がありますが、時を隔ててその成長ぶりを見たり聞いたりする機会に恵まれると、それはもう至福の喜びで、教員になってよかったと心底思います。ですから、どうか卒園後も椋山幼稚園をお訪ねください。葉書一枚でも、教え子からの葉書は宝物です。何十年先も「先生」と呼んでもらえるように、尽力します。

椋山幼稚園の卒園式では、園長から卒園証書もらった年長さんはご家族の方へ向き直して、ひとりずつ「大きくなったら…」「1年生になったら…」と将来の夢や入学後の抱負を話します。幼かったわが子の成長ぶりと、その子らしさあふれる言葉の一つひとつに、ご家族はもちろん、会場中の大人達が幸せな気持ちで満たされます。園長1年目の卒園式でのことでした。ご家族の方へクルリと向き直した男児が、背中をスッと伸ばすと「僕は、大きくなったらママを守ります」と高らかに宣言しました。その瞬間、私は息もできないほどの感動に胸を締め付けられました。「母親冥利に尽きる」とは、まさにこのことではないのでしょうか。男児の母親はもちろん、多くの母親たちが目頭をハンカチで押さえていました。こんな素晴らしい場面の幾つにも、これまでも、これからも立ち会わせていただけて、園長冥利に尽きます。

わが子の成長ぶりを実感させてもらえる時という点では、親冥利と教員冥利は似ているかもしれませんが、ですが、その密度と機会の多さは比べようもありません。成長の一コマひとコマをお子さんと一緒に大切に味わってください。「親冥利に尽きる」と言えるのは、精一杯育ててきたことへのご褒美でもあるのです。